

小 集 会

1. アスパラガス研究小集会

日時： 3月22日(金) 10:00～17:00

場所： 第二校舎A館A208教室

世話人： 柳井洋介(農研機構野菜花き部門)

内容：

大学構内アスパラガス圃場見学(10:00～11:30)

農研機構野菜花き部門 柳井洋介

明治大院農学研究科 田口 巧

明治大農学部 加藤綾夏

座学第一部(12:55-14:30)

パイオニアエコサイエンス(株) 松永邦則

「採りっきり栽培」の魅力

明治大 元木 悟

「採りっきり栽培」の実際・「採りっきり栽培」の普及に向けた取り組み

明治大院農学研究科 田口 巧

「採りっきり栽培」の収穫物を利用した食育活動と栽培のポイント

明治大農学部 加藤綾夏

「川崎市を含めた近隣の取組みの現状について」

パイオニアエコサイエンス(株) 川崎智弘

座学第二部(14:45-16:50)

農研機構野菜花き部門 柳井洋介

アスパラガス疫病をはじめとする連作障害の総合的な診断及び対策技術の開発

農研機構中央農研 浦嶋泰文

北海道におけるアスパラガス疫病の発生生態について

酪農学園大 園田高広

アスパラガス圃場の簡易排水性診断及び排水改良技術について

長野野菜花き試 酒井浩晃

2. 園芸学とウイルス学の異分野融合研究会 #4

日時： 3月22日(金)12:00～15:00

場所： 第二校舎A館A204教室

世話人： 関根健太郎(琉球大農学部)

内容

(概要)

園芸作物における病害は、栽培種の多様さや研究資源としての扱いにくさから、未だ原因不明のものが多
い。特にウイルス性病害については、極小な病原体であることや、病原性の証明が困難であるために、病害防
除の大きな障壁となっている。近年の分子生物学の発展により、ウイルスは比較的に見つけやすくなる一方で、
その取り扱いに困る場面も増えている。また、公設試験研究機関では個々の業務が過剰であるために、本来
は病害担当者が取り組むべき課題であっても、園芸学会をフィールドとする栽培や育種の担当者が対応に追
われている社会的な背景もある。本小集会では、ウイルス学分野から新たな技術や研究への利活用方法の情
報を共有することで、我が国の農業の発展に資する園芸学の分野の中で課題を見出し、また園芸学の洗練さ
れた技術と融合することで、課題の効率的な解決を目指す一助とする。

講演1 「キュウリとウイルス病～種苗管理と防除～」

(株)埼玉原種育成会 天野政史

講演2 「途上国に発生する植物ウイルス」

東京大院新領域生命科学研究所 鵜家綾香

講演3 「園芸作物に潜むウイルスとその感染拡大様式の特徴」

農研機構中央農研 柳澤広宣

講演4 「雑草ウイルス学のあけぼの」

東京農工大 小松 健

講演5 「網羅的ウイルス検出技術開発 –アヲフォーからのバイオインフォマティクス–」

琉球大 関根健太郎

講演6 「種苗病理検定を迅速化するDNAクロマトグラフィーの紹介」

(株)ファスマック 高崎一人

講演7 「ディープラーニングを用いた植物病の画像による自動診断システムの開発と将来展望」

法政大 鍵和田 聡

3. 第5回栽培系・環境制御系融合型施設園芸研究

日時: 3月22日(金) 13:15~15:30

場所: 第二校舎A館A312教室

世話人: 富士原和宏(東京大院農学生命科学研究科)

内容:

「植物の光環境を記述する物理量の名称とSI単位表記」

東京大 富士原和宏

テーマ別フリーディスカッション(当日会場で希望テーマを募り, 4~5テーマを設定)

農研機構野菜花き部門 岩崎泰永・道園美弦, 岐阜大 嶋津光鑑

「温室トマト群落の画像情報を利用した環境・生育制御技術」

千葉大 彦坂晶子

4. 第27回日本イチゴフォーラム

日時: 3月22日(金) 15:30~18:00

場所: 第二校舎A館A312教室

(第5回栽培系・環境制御系融合型施設園芸研究が終了後, 同会場で引き続き開催)

世話人: 野口裕司(農研機構野菜花き部門)

内容:

「種子繁殖型イチゴの今と未来」

「イチゴ種子繁殖型品種の開発経緯と今後の展開」

三重農研 森 利樹

「種子繁殖型品種を活用した新技術の開発とイチゴ経営の革新」

山口農林総技セ 鶴山浄真

「種子繁殖型品種の種苗生産の現状と将来展望」

三好アグリテック(株) 江澤祥太

5. 「園芸作物バイオインフォマティクス入門」小集会

日時: 3月22日(金) 15:00~17:30

場所: 第二校舎A館A301教室

世話人: 五十鈴川寛司(山形農総研セ園芸試)

内容:

「バイオインフォマティクスの理論と実際~ゲノムワイド関連解析・ゲノミックセレクション~」

農研機構作物開発センター 林 武司

「バイオインフォマティクス解析プロトコール~Local BLAST~」

日本大生物資源科学部 奈島賢児

「バイオインフォマティクス解析プロトコール~連鎖地図作成~」

(公財)かずさDNA研 白澤健太

「バイオインフォマティクス解析プロトコール~QTL解析・分子系統解析~」

山形農総研セ園芸試 五十鈴川寛司

6. 第20回ウリ科作物研究小集会

日時: 3月22日(金) 15:00~17:00

場所: 第二校舎A館A302教室

世話人: 川頭洋一(農研機構野菜花き部門)

内容:

「メロンのゲノム解析およびデータベース構築について」

農研機構高度解析センター 矢野亮一

「アジア植物遺伝資源(ウリ科)の収集・特性評価活動状況について」

農研機構野菜花き部門 川頭洋一

7. 第24回ネギ類研究小集会

日時: 3月22日(金) 16:00~18:00

場所: 第二校舎A館A303教室

世話人: 塚崎 光(農研機構東北農研)

内容:

ネギ類育種家向け分子育種ツールの研究開発

1. 育種への利用を目指したゲノムデータベースの開発

かずさDNA研 平川英樹

2. *Allium cepa* 全ゲノム解析の進捗と今後の課題

山口大 執行正義

3. アメリカで開催予定の国際会議の紹介

山口大 執行正義

8. 第51回「暮らしと園芸」を考える小集会

日時: 3月22日(金) 14:00~15:00

場所: 第二校舎A館A304教室

世話人: 松尾英輔(元東京農業大)

内容:

(要旨)

デザイン農学, それは私たちの暮らしに身近な「農」である草花や昆虫, 飼育動物といった生き物, そして私たちの体の源になっている食べ物がもつ機能を使って, サステイナビリティな暮らしを追求しようとする消費者や生活者目線の先進農学である. 本小集会では, デザイン農学の概念や, その一翼を担う園芸の果たす役割について紹介する.

「デザイン農学の理念と展望」

東京農業大農学部 御手洗洋蔵

9. 第12回伝統園芸研究会

日時: 3月22日(金) 15:00~18:00

場所: 第二校舎A館A304教室

(第51回「暮らしと園芸」を考える小集会が終了後, 同会場で引き続き開催)

世話人: 田中孝幸(元東海大農学部)

内容:

基調講演1: GPSを用いた植物園の植栽図

東京都水道局 我孫子昌弘

基調講演2: ヨーロッパに渡った藪椿

著述業 柄戸 正

基調講演3: 遺伝子からみた栽培種の起源ーキクとツバキ

東京大 柴田道夫

10. ISC(国際柑橘学会)日本支部集会

日時: 3月23日(土)12:30~13:00

場所: 第二校舎A館A301教室

世話人: 島田武彦(農研機構果樹茶部門)

内容:

平成31年度 ISC(国際柑橘学会)日本支部総会の開催
(支部会の活動報告, 活動方針の審議・承認など)